

三重大学環境分子医学／三重県厚生連鈴鹿中央病院中央検査科 学術研究に関するお知らせ

潰瘍性大腸炎における発がん早期診断マーカーに関する研究

この研究は、炎症性腸疾患、特に潰瘍性大腸炎による慢性炎症が発がんに至る過程で早期に診断ができるバイオマーカーをみつけることを目的としています。三重県厚生連鈴鹿中央病院にて2001年～2008年に大腸炎・大腸癌の診断のための検査を受けられた患者様へ当院は患者様の治療を最優先としておりますが、同時に医学の発展を目的とした教育、研究の機能も担っております。慢性的な大腸の炎症状態から発生する癌を早期に予測する因子、およびその機構について研究を続けており、患者様に貢献できるよう努力しております。この研究では、2001年～2008年に採取、保存しておりますパラフィン包埋組織標本の一部を用いて、新しい診断法に有望と考えられるバイオマーカーを免疫組織染色という方法で解析します。保存検体は、大腸炎の種類(病型)、症状、臨床検査データ、年齢、性別の情報を付与し、匿名化、番号化したうえで、研究に使用いたします。結果については、基本的には個人名との照合はいたしません。ただし、患者様の希望があれば検査結果をお伝えします。尚、この研究に関し、患者様の費用負担は一切ありません。本研究は、文部科学省科学研究費(代表：村田真理子)を用いて行います。

(財)日本病理学会による「患者の病理検体の取扱い指針」には、病理検体を学術研究に使用するにあたり、原則として書面によるインフォームド・コンセントが個人別に必要であるが、各医療施設が適正と認める範囲内において包括的同意でも遂行できるとしてあります。当科におきましては、包括的同意として、患者様の不同意の意思表示がない場合にはその病理検体を研究に使用させていただきます。研究への試料提供は自由意思によりますが、原則として、不同意の意思表示がない場合には同意があったものとみなし、病理検体を研究に使用させていただきます。この研究の内容および方法は、当学倫理委員会での厳正な審査の結果承認が得られ、実施について当学医学系研究科長の承認を得ています。ご自分の検体をこの研究に使用してほしくないとお考えの患者様は、下記の連絡先までご連絡をお願い申し上げます。検体の使用にあたっては、患者様およびご家族に診療上の不利益などが一切生じないよう、以下のことを厳守いたします。

- 医学研究以外には使用しない
- 患者様およびご家族の氏名は公表しない。個人情報厳密に守秘する
- 研究結果は学会、研究会、学術論文以外では発表しない
- いつでも検体使用の拒否は可能であり、それによって患者様に不利益を及ぼすことはない

連絡先、この研究の研究責任者

三重大学大学院医学系研究科環境分子医学分野 教授 村田真理子

住所 〒514-8507 三重県津市江戸橋2-174

電話059-231-5011 FAX 059-231-5011